

第1章

はじめに ～スポーツを通じた地域活性化に関する基礎的研究について

1 研究の背景

スポーツは地域活性化に様々な効果をもたらすことが期待されている。

例えば、我が国のプロサッカーリーグであるJリーグのクラブの存在が地域にもたらす効果について、株式会社日本経済研究所(2009)は事例分析等をもとに、「地域に様々な経済効果を与えると同時に、多様な経済主体にサービスを提供することが可能(サッカー観戦というエンターテインメントの提供、広告サービス提供)」、「Jリーグのクラブは、その社会貢献的な性格から、ソーシャルビジネス(社会的企業)としての性格を保有。その理由として、Jクラブの活動は、ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の源泉、地域力向上の源泉となりうる点が挙げられる」と指摘したうえで、「Jクラブは“地域の重要無形文化財”になりうる」と分析し、クラブとそれを取り巻く市民、地域企業、スポンサー、行政等が連携し、互いに活用することによって地域力が向上するとしている。

また、北九州市教育委員会¹⁾が2006年3月に策定した『北九州市スポーツ振興計画』においては、スポーツの意義として、「健康・体力づくり」、「生きがいづくり」、「コミュニケーションづくり」、「青少年の健全育成」と並び「地域の活性化」を掲げ、「トップアスリートのパフォーマンスや地元選手の活躍は、人々に夢や感動、勇気を与え、地域のイメージアップや活性化につながります。また、ビッグスポーツイベントの開催は大きな経済効果をもたらします。」と述べている。

もちろん、こうした地域活性化の効果は、プロスポーツに限られるものではない。文部科学省では、経済中心型の社会から成熟した市民社会への転換が進み、また行政主導型システムを見直す動きが活発化してきた時代背景を踏まえ、1995年度から総合型地域スポーツクラブ²⁾の育成に取り組んでおり、地域のコミュニティの核となる役割を担うスポーツクラブづくりを進めている。市民の健康向上等に加え、世代間交流の促進など、活性化に役立つ事例も増加しつつあると言えよう。

一方、北九州市及びその周辺地域に目を向けると、地域経済や行財政を取り巻く厳しい環境が続いてお

り、様々な地域活性化策が模索されている。地方分権・地域主権型社会へと進む中、地域としての一体的な取り組みを進めることにより、国際的な都市間競争に立ち向かっていくこと等に直面しているとも言えよう。なおかつ、少子高齢化が進展する中、様々な局面でコミュニティやソーシャルネットワークの重要性も問われており、今後、これらが一層重要な役割を果たすことが社会的に期待されていると言えよう。

こうした北九州地域の状況の中、地域活性化のための重要な要素として、スポーツが考えられるのではないか。北九州市はかつて、現在の新日鐵八幡製鉄所をはじめとする企業スポーツ等で多数のトップアスリートを輩出してきた歴史があり、現在も地域ゆかりのチーム、選手が全国レベル・世界レベルで活躍しているケースも少なくない。また、市民参加型のスポーツイベント等も行政や企業等の主催によって着実に実行されてきている。ただ、こうした活躍は市民の誇りになってはいるものの、地域の経済やコミュニティ等の活性化にとって、さらに大きな役割を果たすことができる余地が残っているのではないかと感じられる。

折しも、2001年に発足しサッカーJリーグ入りを目指していたニューウェーブ北九州(2010年シーズンからはギラヴァンツ北九州)は、2009年シーズンにおいて翌年からのJリーグ入りを懸けた戦いを行うまで成長してきた。また、コミュニティに目を向けると、北九州市内においても総合型地域スポーツクラブが複数設立され、地域に根付いた活動が展開されつつある。これらの取り組みは、市民、企業、各種団体、行政、教育機関等が連携して活動を行っているという共通した特色があり、地域の活性化に今後さらに重要な役割を果たすことが期待できる重要な活動ではないかと考えられる。

2 研究の目的

そこで本研究においては、北九州地域におけるスポーツを通じた地域活性化について、ニューウェーブ北九州(ギラヴァンツ北九州)と総合型地域スポーツクラブに着目し、地域に関わる様々な主体が連携した活動に向けた今後の展望等を考察するための基礎的な研究³⁾を行うことを目的とする。その際、これらの活

動が地域に与える効果に着目するとともに、地域としてこれらの活動を「支える」ためにどのようにすべきか、という点にも特に着目することにより、今後の地域活性化策を考えていく上でより具体的かつ現実の課題を反映した研究となるよう留意した。

なお、ニューウェーブ北九州（ギラヴァンツ北九州）に関しては、北九州市立大学都市政策研究所 2008 年度地域課題研究において、「プロサッカーチームが北九州市に与える経済効果に関する研究」を行い、チームの活動が地域に与える効果の一側面の研究を行っている⁴⁾。本研究は、それを別の角度から発展させる形となっている。

3 研究の構成

本研究は 1 本のシンポジウム講演録と、3 本の研究論文によって構成している。

第 2 章は、2009 年 10 月 18 日（日）に本研究の一環として北九州市立大学都市政策研究所が主催したシンポジウム「スポーツを通じた北九州地域の活性化」の講演録を取りまとめている。基調講演者の池田弘氏は、(株) アルビレックス新潟会長、NSG グループ代表の要職に就かれており、プロスポーツチームおよび教育機関の経営者として地域活性化を実践してこられた経験をもとに、プロスポーツチームをこれから育てていく北九州市にとってたいへん示唆に富む御講演をいただいている。また、パネルディスカッションでは、当時のニューウェーブ北九州の活動を支えておられた市民、経済界、行政の代表の方々に加え、(株) ニューウェーブ北九州社長、本学教員、および各地の地域活性化に精通しておられる傍士銚太氏（Jリーグ理事）という多彩なメンバーにより、「スポーツを通じた北九州地域の活性化」について議論を行っている。

第 3 章は、ニューウェーブ北九州の活動支援を実践してきた北九州市立大学の学生グループ「NavyWavy」の 7 名が自らとりまとめた「Jリーグチームと大学生の連携に関する研究」である。本学キャリアセンターの見館好隆准教授の指導を受けつつ、学生自らが全国の Jリーグチームを対象とした調査を行い、また活動が顕著な Jリーグチームや大学に対する現地取材を行って得られた知見をもとに、ニューウェーブ北九州（ギラヴァンツ北九州）と北九州市立大学生の今後の連携のあり方等について考察を行っている。

第 4 章は、北九州市立大学都市政策研究所の南博、神山和久、片岡寛之が執筆した「Jリーグ加盟当初の

ギラヴァンツ北九州に関する市民意識分析」である。より一層、市民が「応援したくなる」プロスポーツチームのあり方等について、インターネット調査に基づく市民意識の把握・分析を行っている。現状ではギラヴァンツ北九州に関心のない市民まで含んだ形で試行的に市民意識を把握した点に意義があるものと考ええる。

第 5 章は、第 2～4 章とは視点を変え、総合型地域スポーツクラブについて、活動の実践者である特定非営利活動法人北九州スポーツクラブ ACE の上村秀樹理事長が執筆した「総合型地域スポーツクラブ事業の現状と課題」である。文部科学省による全国調査結果等を整理した上で、自身の現場での経験を踏まえ、総合型地域スポーツクラブづくりの今後のあり方を考察している。

なお、第 6 章においては、「おわりに」として本研究の概要を振り返り、ごく簡単に総括を行っている。今年度は焦点を絞った基礎的な研究として様々な知見を得て、スポーツ関係者等への情報提供に資する成果を挙げたと考えるものの、「スポーツによるまちづくり」に関する考察をはじめ、具体的かつ幅広い政策提言等には至っておらず、道半ばである点を予めご了承いただきたい。

（本章の執筆責任者：南博⁵⁾）

注

- 1) 北九州市のスポーツ行政の所管は 2008 年 4 月に教育委員会から市長部局に移管されており、2009 年度現在は企画文化局文化スポーツ部が所管している。
- 2) 総合型地域スポーツクラブについては第 5 章を参照。
- 3) スポーツを通じた地域活性化は非常に広範にわたる研究対象・課題があるため、単年度の研究として網羅的な検討を行うことは困難である。そこで、まず限られた事例を対象に、なおかつその活動の一部に焦点を絞った基礎的研究を行うこととした。
- 4) 前年度地域課題研究については参考資料を参照。
- 5) 北九州市立大学都市政策研究所准教授

参考文献

- 1) 株式会社日本経済研究所『Jクラブの存在が地域にもたらす効果に関する調査（概略）』、2009
- 2) 北九州市教育委員会『北九州市スポーツ振興計画－友・遊スポーツプランきたきゅうしゅう－』、2006
- 3) 文部科学省 Web サイト (<http://www.mext.go.jp/>)